

# 中学校2年生 音楽

## <題材名>

曲想と音楽の構造との関わりを理解し、曲のよさやオーケストラの豊かな表現を味わおう  
〔全3時間〕

## <内容のまとめり>

〔第2学年及び第3学年〕

・B鑑賞(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1)



## ＜スライド作成にあたって＞

- 題材を通じた学習課題を導くために、いくつかの課題を設定した展開例です。
- 第2・3学年での鑑賞の配慮事項をもとに、批評したりする活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにする実践例です。
- 2曲の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを特に重視した学習です。

# 教材と出会う

(1時間目)

これから鑑賞する曲(ラヴェル作曲「ボレロ」)は、  
→聞いた感じは？ 何を表現している？  
→演奏されている楽器は？

単元の導入や曲に出会う手順がポイント。いろいろなアブローチを要検討

## 鑑賞1



# 教材と出会う

(1時間目)

情報の収集・精査

聴いたことがある？

→テレビドラマ, コマーシャル, フィギュアスケート...

何を表現? どんな感じ?

→踊っている様子, 静かに始まり最後は熱狂的な感じ...

最初に聴いた知覚, 感受をもとに次の学習活動へ

ICT:ロイロノートを活用し, 知覚・感受したことを共有する

演奏されている楽器を大きく4つに分けると?

◇弦楽器... ○○○, ○○○, ○○○, ○○○

◇木管楽器... ○○○, ○○○, ○○○, ○○○

◇金管楽器... ○○○, ○○○, ○○○, ○○○

◇打楽器... ○○○, ○○○, ○○○, ○○○

小学校で既習した内容, 知識をもとに分類

ICT:タブレットの画像を活用し, 楽器等を確認する

# 教材と出会う

(1時間目)

作曲家は？  
「ボレロ」って？

- 作曲家: モーリス・ラヴェル[1875-1937], スペイン国境に近いフランスの南西部のシブールに生まれた。
- 18世紀にスペインで発祥した舞曲。情熱的なスペイン舞踏バレエ音楽のための管弦楽(オーケストラ)の編成で作曲

曲の構成は？

- 2つの旋律[主題A, 主題B]と小太鼓のリズムの繰り返りで、曲全体を構成している。

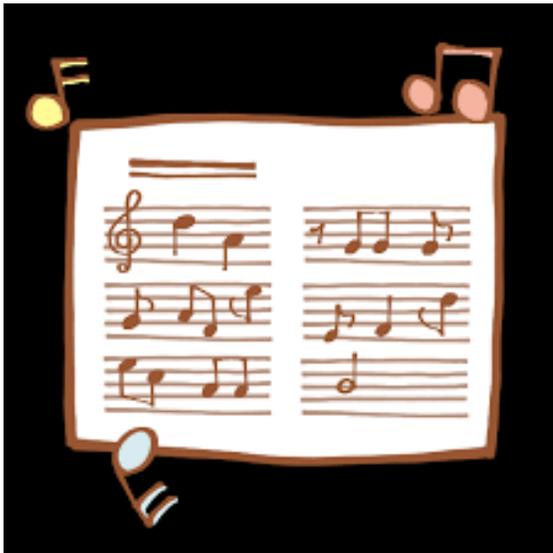
情報の収集・精査

オーケストラの  
楽器編成は？

最初に聴いたことを  
基にまとめ、知識を生かしたり得たりしながら  
次の課題へ

- ◇弦楽器・・・ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ, コントラバス, ハープ
- ◇木管楽器・・・フルート, オーボエ, クラリネット, ファゴット, サクソフォン...
- ◇金管楽器・・・トランペット, ホルン, トロンボーン, チューバ...
- ◇打楽器・・・小太鼓, 大太鼓, シンバル, ティンパニ, チェレスタ...

アウト  
プット



## 学習課題をつくる

(1時間目)

「ボレロ」(「火星」)の曲想(曲の雰囲気や表情, 味わいなど)と音楽の構造(音楽を形づくっている要素など)は, どのように関わっているだろうか

## 評価の規準を知る



### 〔知識〕

- 「ボレロ」, 「火星」の曲想と音楽の構造との関わりが分かる。
- 「ボレロ」, 「火星」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史, 他の芸術との関わりが分かる。

### 〔思考・判断・表現〕

- 2曲の各楽器の音色, リズム, 旋律(主題), テクスチャ, 強弱, 構成(繰り返し)を聴き取り, それらの働きが生み出す特質や雰囲気との関わりについて考える。
- 音楽の特徴と作られた背景や他の芸術との関わりについて理解し, 2曲のよさや表現の豊かさを味わう。

### 〔主体的に学習に取り組む態度・感性・思いやりなど〕

- オーケストラの演奏に関心をもち, 表現の多様性やよさを味わう。自分が感じ取ったことや学んだことを進ん

で「曲紹介」にまとめようとしている。



# 考えを広げ深める

(2時間目)

主題A・Bはどのように現れ、どのように音楽が構成されているか？

◇主題Aが2回、主題Bが2回現れた後、同じパターンを3回繰り返す。さらに主題A・Bが1回ずつ現れ、コーダで終わる。

情報の  
収集・  
精査

◇拍子: 4分の3拍子      ◇速度: ♩=76  
◇小太鼓のリズム(2小節)にのせてフルートソロから始まり、いろいろな楽器が二つの主題を交互に演奏しながら、最後(コーダ)は全ての楽器で演奏する。  
◇出だしはpp, 最後はffで締めくくられる。

それぞれの主題、リズムを演奏している楽器の音色や響き、強弱などで感じたことは？ 感じたことをまとめると？

考えを  
形成

- 前半は、木管楽器で主題が演奏されているのは、落ち着いた静かな雰囲気を表そうとしている。
- 最初はとっても小さく始まり、最後はものすごく迫力のある終わり方をしている。曲全体が、長いクレッシェンドで構成されているようだ。
- 楽器の音色の違い、美しさ、カッコよさを感じることができた。バレエが静かに始まり、熱狂的に終わる様子を表しているようだ。



アウト  
プット

# 教材と出会う

## 鑑賞3

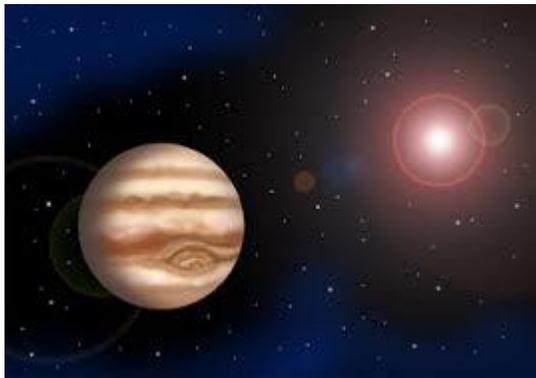
(2時間目)

組曲「惑星」とは？ 第1曲「火星」はどのように音楽が構成されているか？

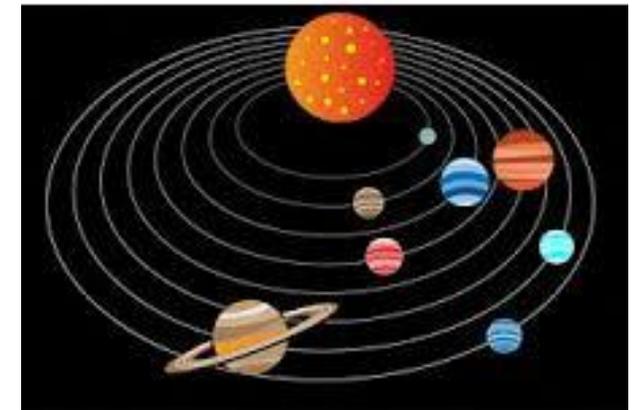
- ◇西洋占星術における各天体のテーマや内容をもとに、全7曲からなる曲
- ◇グスターヴ・ホルストはイギリスの作曲家

情報の  
収集・精査

- ◇拍子：4分の5拍子
- ◇速度：Allegro
- ◇冒頭、ティンパニ、ハープなどで5拍子によるリズムで音楽が始まり、リズムが繰り返される中で三つの主題が現れ、曲想が変化しながら曲が作られている。
- ◇「火星」のテーマは、「戦いの神」



- |          |                 |
|----------|-----------------|
| 第1曲「火星」  | 戦争をもたらすもの       |
| 第2曲「金星」  | 平和をもたらすもの       |
| 第3曲「水星」  | 翼のある使い          |
| 第4曲「木星」  | よろこび(快樂)をもたらすもの |
| 第5曲「土星」  | 老いをもたらすもの       |
| 第6曲「天王星」 | 魔術師             |
| 第7曲「海王星」 | 神秘なるもの          |



# 考えを広げ深める

(2時間目)

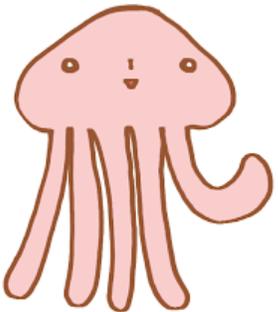
冒頭のリズムとそれぞれの主題との関わりから、曲想の変化をどう感じるか？ 感じたことをまとめると？

考えを  
形成

- 「火星」も最初静かに始まり、大きくなったり小さくなったり、最後は何か不気味さを感じさせる強烈な終わり方をしている。
- ティンパニと弦で刻むリズムが、最初から最後まで続く。途中、一時途絶えるが、このリズムと5拍子がとても印象的で、戦争の恐怖、緊迫感を表しているようだ。
- テンポが速く、いろいろな楽器が加わり重なりながら、三つの主題が演奏される。金管楽器、打楽器の響き、力強さが戦争のすさまじさを表しているようだ。
- 三つの主題が現れた後、テンポがゆっくりになって静かになる。神秘的で、果てのない宇宙の様子を表している感じがする。



アウト  
プット



# 考えを広げ深める

(3時間目)

作曲家の生涯，2曲が作られた背景となる文化や歴史，他の芸術との関わりなどについて調べよう

- 印象派の作曲家「ドビュッシー」と同時代(近代・現代)に活躍。個性的な様式を確立し，新古典主義へ
- 独自の管弦楽法を駆使し豊かな響きを追求  
→オーケストレーションの天才，管弦楽の魔術師と言われる卓越した管弦楽法とスイスの時計職人(ストラヴィンスキー談話)と評された精緻な書法
- 「亡き王女のためのパヴァーヌ」，「水の戯れ」  
「ダフニスとクロエ」などピアノ曲，管弦楽曲を数多く作曲
- 「ボレロ」は世界的なロシアのバレリーナの依頼により作曲。パリ・オペラ座で初演，大成功。

- 惑星が作曲されたのは第1次世界大戦直前から戦中。未曾有の戦争を予感させるような曲想
- 地球を除く7曲で作曲。冥王星は発見されていなかった。2006年に惑星から外れる。
- ロンドン王立音楽院に入学，作曲，トロンボーンを学ぶ。「吹奏楽のための第1組曲・第2組曲」は吹奏楽曲の古典的な作品

情報の  
収集・  
精査



ICT: タブレットや資料集等で調べ，まとめたことをロイロノートで共有する

# まとめ

## 鑑賞4

(3時間目)

「ボレロ」、「火星」の曲想と音楽の構造は、どのように関わっているだろうか。今まで調べたことを根拠に、自分が感じたことや学んだことをまとめよう。

考えを  
形成

「ボレロ」は、スペイン舞踏のリズムにのり、2つの主題が9回ずつ繰り返り、楽器を増やしながら音量を増し、最後のクライマックスを迎える。舞踏の様子を情熱的に表現していて、最後は聞いていてとても気分が高まってくるようだ。

「火星」は、5拍子のリズムをベースに3つの主題が金管楽器を中心に展開され、力強いコーダで終わる。宇宙の暗闇の中から戦いに向かう緊張感、戦争のすさまじさ、緊迫感を表現しているようだ。

そのように感じたのは、2曲とも「反復の効果」を最大に発揮し、強弱、クレッシェンド等の表現、それぞれの楽器の音色の組み合わせを考えた曲の構造になっているからだと思う。

「ボレロ」、「火星」とも、オーケストラの豊かな響きを感じることができる名曲だ。共通点は、リズムを目立たたさせるように延々と繰り返り、「繰り返しの魔力」といわれるような不思議な音楽の力を感じることができる。

1年では他者に言葉で説明する活動を通じた学習を踏まえ、2・3年では、生徒の実態に応じて、他者と共に論じ合う、批評する活動を取り入れて、音楽を聴き味わうことが一層深まるように配慮する。

アウト  
プット



## 振り返る



JUPITER

(3時間目)

### 〔知識, 思考・判断・表現〕

ラヴェル作曲「ダフニスとクロエ」と「木星」を聴き、「ホレロ」、「火星」と比較し、オーケストラの豊かな響きを味わいながら、自分が感じたことや学んだことを「曲紹介」としてまとめよう。

### 〔主体的に学習に取り組む態度・感性・思いやりなど〕

オーケストラの演奏に関心をもち、表現の多様性やよさを味わいながら、自分が感じ取ったことや学んだことを進んで「曲紹介」にまとめようとしていたか。

ICT:ロイロノートで振り返りを共有する

## 参考音源 (YouTube) : URL

### 〔ボレロ〕

◇演奏: フランス国立管弦楽団 指揮: ロリン・マゼール 1981.9.

<https://search.yahoo.co.jp/video/search?p=%E3%83%A9%E3%83%B4%E3%82%A7%E3%83%AB%20%E3%83%9C%E3%83%AC%E3%83%AD&rkf=2&dd=1#0e5bd96e0514e8985a0ad593c4ab5dd4>

### 〔バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第2番〕

◇演奏: ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 指揮: ヘルベルト・フォン・カラヤン 1978.2.14

<https://www.youtube.com/watch?v=gLKs0NeJsHU>

### 〔惑星(全曲)〕

◇演奏: NHK交響楽団 指揮: シャルル・デュトワ 1998.4.2

<https://www.youtube.com/watch?v=XFS4zvhdXrM>